

合志市内の空き家を活用するプロジェクト

こうし未来研究所

濱田 善也 社長



熊本第二高校-熊本商科大学卒
1979 (昭和54)年に合志町事務社員として入庁。2011年政策部長、
16年政策監、17年合志市副市長。

活用し、人を呼び込むことで、活力あるまちにしたい」と話すのは、今年6月に(株)こうし未来研究所社長に就任した濱田善也合志市副市長。

同社は2015年4月に合志市と民間企業が共同で設立したまちづくり会社。今年6月から合志市内の空き家を活用するプロジェクトを開始し、相談窓口を開設した。同プロジェクトでは空き家所有者からの相談や市の業務委託を受け、調査・分析・管理・改修、有効活用までをワンストップで対応する。また老朽化したまま放置されるなど、管理がされていない「特定空き家」に関しては、所有者に問題解決に向けた助言など行うという。

2015年に「空き家対策特別措置法」が完全制定された。13年の総務省の調査では、全国に約818万戸の空き家が存在することがわかり、また33年には総住宅数の約3割が空き家になるという統計データもあるなど、空き家問題は大きな社会問題となっている。全国の自治体はその実態調査や利活用などの対策を急いでいる。

「空き家が増えると、景観や治安の悪化につながり、地域の活力が失われる。空き家を

濱田社長は「合志市と協力しながら、行政が着手できない不動産売買や仲介まで一括し、責任をもってサポートする。地元を離れ、どこに相談していいかわからない所有者の方が、安心して相談ができるような窓口にしていきたい」と語った。